

日本人アーティストとして初!  
全英シングル・チャート  
8位を記録した

SAHAJiからの熱いメッセージ!

SHOTARO NISHIDA  
西田蕉太郎  
SAHAJi

この映画はMy Generationで始まりMy Generationで幕が下りる  
俺達を代弁してくれるのはThe Whoだ  
どんなに狂った事をやっても正義に変えてくれる  
夢は見るものじゃない叶えるものだとは彼は言っている  
怒りの中には愛があり平和がある  
いつだってThe Kids are alright さ

YOSHINO NISHIDA  
西田曜志朗  
SAHAJi

平成生まれの俺達もThe Whoを聴いて育ってきた  
彼等からは生きる希望や存在意義を教わった  
今の時代にこそ魂に突き刺さる、  
鼓動が突き上がる滲み出る音楽が必要だと思う  
Talkin' 'bout my generation  
次は俺達の番だ

ザ・フー 映画『キッズ・アー・オールライト』

日本初劇場公開記念イベント!

チケット発売中!



**Tickets**  
チケット料金  
前売 ¥5,500 | 当日 ¥6,000  
（税込 / ドリンク別）  
イープラスにて発売中

ザ・フー 映画『キッズ・アー・オールライト』  
日本初劇場公開記念イベント!

**The Who**  
Tribute Live  
**The Kids Are Alright!**  
SHIBUYA CHELSEA HOTEL  
B1 Totsen-Udagawa-cho Bldg. 4-7 Udagawa-cho Shibuya-ku Tokyo  
渋谷チェルシーホテル  
渋谷区宇田川町4-7 トッセン宇田川ビルB1  
Thursday 18th Sept. 2025  
at 6.30p.m. (Doors open at 6.00p.m.)

出演: ロジャー・ダルトリイ、ジョン・エントウィッスル、キース・ムーン、ビート・タウンセント、リンゴ・スター  
監督: ジェフ・スタイン  
音楽監督: ジョン・エントウィッスル

メール予約  
otani\_nine@yahoo.co.jp  
件名に9/18 チェルシーホテルチケット予約と記載下さい。  
予約順で整理番号を返信します。  
メール予約のチケットは17:00-18:20 会場で引換します。

イープラス  
QRコード

『キッズ・アー・オールライト』オリジナルサウンドトラック  
[https://umj.lnk.to/TheWho\\_Kids](https://umj.lnk.to/TheWho_Kids)

英国ロック・グッズの祭典  
**THE BRITISH ROCK 2025**

2025年9月26日(金)~10月5日(日) 入場無料  
大阪・心斎橋オーバ7F イベントスペース  
in OSAKA

2025年10月17日(金)~10月27日(日)  
東京・池袋バルコ本館7F PARCO FACTORY  
in TOKYO

出演アーティスト: THE WHO, THE BEATLES, ROLLING STONES, LED ZEPPELIN, OASIS, QUEEN, DAVID BOWIE, PINK FLOYD, ERIC CLAPTON, SEX PISTOLS, THE CLASH, IRON MAIDEN, BLUR, RADICHEAD, THE 1975

公式サイト  
<http://who.onlyhearts.co.jp>

1979年 / イギリス / 英語 / 110分 / 5.1ch  
原題: The Kids Are Alright  
©Who Group Ltd / 字幕: 福永詩乃

配給: オンリー・ハーツ

Online Shop  
<https://onlyhearts.stores.jp>

9/26(金)より

|                |                      |             |
|----------------|----------------------|-------------|
| 角川シネマ有楽町       | YEBISU GARDEN CINEMA | 池袋HUMAXシネマズ |
| 109シネマズプレミアム新宿 | 吉祥寺UPLINK            | 他 全国順次公開    |



The Kids Are Alright

老  
い  
る  
前  
に  
死  
に  
た  
い  
ね

The Who

A film by JEFF STEIN 'THE KIDS ARE ALRIGHT'  
starring THE WHO: ROGER DALTRY, JOHN ENTWISTLE, KEITH MOON & PETE TOWNSHEND  
Featuring RINGO STARR, STEVE MARTIN, TOMMY SMOTHERS, RUSSELL HARTY & MELVYN BRAGG  
Executive Producer: SYDNEY ROSE Producer: BILL CURBISHLEY & TONY KLINGER  
Associate Producers: JEFF STEIN & ED ROTHKOWITZ Music Director: JOHN ENTWISTLE Music by: THE WHO Edited by: ED ROTHKOWITZ  
Written & Directed by: JEFF STEIN

ロックをロックたらしめた最高最強の4人組  
すべての反抗と冒険を肯定した魂のドキュメント

ザ・フー  
キッズ・アー・オールライト  
レコード・デビュー60周年記念 日本初劇場公開

HDレストア版 全歌詞字幕付

ザ・フー  
ロジャー・ダルトリイ ジョン・エントウィッスル キース・ムーン ビート・タウンセント  
リンゴ・スター  
監督: ジェフ・スタイン 音楽監督: ジョン・エントウィッスル

Comments  
コメントをお寄せいただいた方々

朝日順子  
吾妻光義  
畔柳ユキ  
サエキけんぞう  
michiaki  
(Ra:IN,TENSAW)

SAHAJi 西田蕉太郎  
SAHAJi 西田曜志朗  
田中千世子  
鶴澤津賀寿  
那須慶子  
ピーター・バラカン  
保科好宏  
松村 洋  
渡辺真起子



## YUNKO ASAHI 朝日順子

翻訳家/編集者/音楽ライター

英国には昔からパンチ&ジュディという、暴力満載の荒唐無稽な人形劇がある。本作はパンチ&ジュディ並みに笑えるトークと、アドレナリン全開の演奏部分が交互にきて、あっという間にエンディングを迎える。そんななか

**印象に残ったのはベース音で、映画館でなければ気づかなかった。日本初の劇場公開ありがとう！**

## MITSUYOSHI AZUMA 吾妻光良

ミュージシャン

110分これでもか、のオリジナル・メンバーのWHO責めで、彼らが如何に猛烈な個性の持ち主であり、空前絶後のロック・バンドだったか、を思い知らされる。逸話などを入れてホロリとする人情噺の様な作品にも出来ただろうが、ひたすら続く演奏シーンを見ているだけで、

**何故か伝説のウッドストックのライヴで涙ぐんでいる自分に気づいた。**

## YUKI KUROVANAGI 畔柳ユキ

写真家/ライター/ラモーンズ・ファンクラブ・ジャパン会長

ザ・フーが初めて来日したのは2004年。それまで「彼らのライヴを見たい」という願望と渴望感を満たしてくれたのが『キッズ・アー・オールライト』だ。10代の苦悩や怒りを代弁し、破天荒なパフォーマンスでファンの心を掴む4人の魅力が集約されている。今見ても、**だからバンドって最高!と思える傑作。**



## KENZO SAEKI サイキけんぞう

作詞家/アーティスト

すべてがヴィンテージ! パンク感覚の先駆者である彼らの60年代のTV映像は、ロック・ミュージシャンによる反抗的な態度が形成される貴重なドキュメントだ。

またロック界最高の狂人、キース・ムーンの、実は正確なドラミングを象徴する映像も超貴重!

**テクノ機材シークエンサーとのセッション映像だ! YMOの高橋幸宏の大先輩なのである。**

## CHISEKO TANAKA 田中千世子

映画評論家

「マイ・ジェネレーション」は、今こそ「永遠のジェネレーション」。白いつなぎのビート、金髪を揺らすロジャー、侍風のジョン、そしてラディカルな憂愁をたたえる前のめりのキース(マルクス・ブラザーズのハーボッド)が音を刻む。

**曲とステージをきっちり聞かせる  
スタイン監督の忠実なファンぶりが  
スバラシイ。**



## TSUGA II TSURUZAWA 鶴澤津賀寿

義太夫節三味線演奏家(人間国宝)

さまざまな時代のインタビューやライブ、スタジオ演奏で綴られたザ・フーの歴史。若さにまかせた楽器破壊などの暴走を、彼らの意思に関わらず、**やめられなくなった苦悩が、激しく、哀しく、迫る**

## KEIKO NASU 那須慶子

アーティスト/ミュージックセレクター

Baba O'rileyとSee me Feel meに感動し、繰り返し繰り返し聴くうちにThe Whoが世界一好きなバンドになった! この映画(当時VIDEO~DVD)を観て益々好きになった。

**少女期の体感はいまだに続き、  
元気になる!時はThe Whoなのだ。**



## PETER BARAKAN ピーター・バラカン

ブロードキャスター

これが日本初公開とは信じがたく、ほくも長年見たかった映画ですが、

**元祖パンク・ロック・バンドの  
黄金時代を記録した貴重な作品です。**



## YOSHIHIRO HOSHINA 保科好宏

ロック評論家/ザ・フー・ファンクラブ初代会長

型破りな4人の個性のぶつかり合い、攻めぎ合いが生み出す演奏の破格のダイナミズム。テクニックを超越した至福のアンサンブルは正にバンド・マジック。当時の大物ロック・バンドをダイナソー(時代遅れの恐竜)と揶揄した70年代のパンク・バンドも拳ってザ・フーの曲をカバーし(セックス・ピストルズ、ジャム、ダムド等)リスペクトしたのは、曲や演奏に若者が抱く社会・体制からの疎外感や、大人社会への怒りをストレートに表現していたから。そんな元祖パンク・バンドにして最高のロック・バンドの全盛期を捉えた、**ロック史に残る傑作ドキュメンタリー映画を観ずして  
ロックを語るなかれ。**

## HIROSHI MATSUMURA 松村 洋

音楽評論家

バンドの真価は録音された作品よりも、やはりライブで発揮される。ザ・フーのライブは、ぶっ飛んでいた。楽器ぶち壊しサービスも、ステージだからこそ楽しめた。彼らの滅茶苦茶かつこいライブ映像を大画面大音量で!

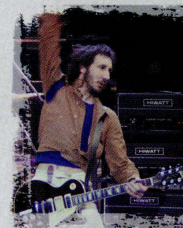
**力強く切ない「無法の世界」(Won't Get Fooled Again)は、  
ロック史に残る名演だ。**

## michiaki michiaki (Ra:IN, TENSAW)

ミュージシャン

ブリティッシュ・ロックの最高峰、ザ・フー! モッズ・ファッションに身を包んだロンドンの若者、ビート、キース、ジョン、ロジャーの4人がデビューからロック史にその名を刻んでいくドキュメンタリー。

**彼らの演奏は凄まじく圧倒的で  
合間に魅せる静寂とのバランスが最高。  
これぞロックのバイブル!**



## MAKIKO WATANABE 渡辺真起子

俳優

彼らのライブを生で見る機会がなかった私にとって、このドキュメンタリーはとても新鮮で、濃厚なものでした。ギターを持ったことがある人で、ビート・タウンゼントの真似をしたことがある人は世界中にたくさんいるはず。スピーカを壊したり、ギターを床に叩きつてみたいって思った人はどれぐらいいるのでしょうか。

**思春期にThe WHOの楽曲で踊り狂っていた私ですが、  
今更、彼らの具体的な大きさを知った気がしました。**